

## 前回議論のとりまとめ(案)

第1回農林水産戦略協議会では、『スマート生産システム』についての集中的な議論が行われ、次のような提案がなされました。

## 1. TPP対策として、畜産のスマート化による競争力強化

- 農業全体を考える上で、耕畜連携は重要であり、TPP対策としての畜産の強化についてどのように取り組むかを検討することは必要。
- 畜産のメガ・ギガファームの機械化については、自動搾乳機など海外製品に依存しているのが現状であり、本分野への研究開発は検討の余地あり。⇒全てを国産品にこだわる必要性についての指摘もあり
- 畜産の餌についてはボトルネック。SIPでも多収性イネの育成等飼料自給率の向上に取り組んでいるが、実取りのトウモロコシなど新たな作物の可能性についても取り組むべき。⇒農林水産省では畜産農家の減少を受けて、トウモロコシの育種等も含めた飼料自給率の向上について取組中。
- 飼料については、リスクが担保された輸入飼料が我が国には入ってきていないため、畜産物の輸出に向けたグローバルギャップを取得する際の重要な課題となっている。
- 畜産の機械化には、畜産農家の減少等により国内のマーケットが縮小しているため、海外市場も視野にいたれたグローバルな戦略が必要であり、そのためには関係府省の連携が重要。

## 2. 農業のITシステムの標準化

- 農業分野でのITの標準化は、他分野に先じて実用化を図るものであり、関係府省との連携を密にして参りたい。
- リーズナブルなコストでロボットが生み出すサービスを農家に提供する形（コントラクター）での出口戦略の柔軟さが必要。
- 輸出先の国の規準も含めたICTシステムの標準化も必要。

## 3. その他

- センサー等の活用による産業・府省連携による農業のスマート化